

なかどまり

第20号

平成22年5月発行

議会ガイド



中泊町立薄市小学校6年生の皆さん

「第1回定例会 傍聴の様子」

平成22年3月8日(月)



〈主な内容〉

- 第1回定例会 2
- 一般質問 6
 - 荒関 富雄議員 6
 - 塚本 悦子議員 7
 - 青山 雅晴議員 8
 - 奈良 清治議員 10
 - 角田 順一議員 11
 - 秋元 啓志議員 12
 - 川山 光則議員 13
- 議会傍聴の感想 15
- 委員会だより 16
- 議会の動き 16

平成二十二年 第一回定例会

平成二十二年第一回中泊町議会定例会が三月三日招集される。



第三日目(三月五日)
議案熟考のため休会

第四日目(三月六日)
議案熟考のため休会

第五日目(三月七日)
議案熟考のため休会

第六日目(三月八日)

本会議
一般質問に、荒関富雄議員、塚本悦子議員、青山雅晴議員、奈良清治議員、角田順一議員、秋元啓志議員、川山光則議員が登壇。

第七日目(三月九日)

予算特別委員会
平成二十二年各特別会計予算審査

第八日目(三月十日)

休会

第九日目(三月十一日)

予算特別委員会
平成二十二年一般会計予算審査

第十日目(三月十二日)

上程してある三十二議案、追

第二日目(三月四日)

一般質問通告締切
議案熟考のため休会

次に三十二議案、報告二件を一括上程し、町長から提案理由の説明後、各常任委員会に付託された要望の審査結果について報告後、要望一件を採択し散会。

加一議案、報告二件、発議二件について審議した結果、原案どおり可決、同意、承認。
また、陳情一件、要望一件について、民生文教常任委員会に付託して閉会。

審議された議案

条例

○中泊町学校施設整備基金条例の制定

町が設置する学校の建物その他工作物の計画的な保全及び整備に必要な経費に充てるため、中泊町学校施設整備基金条例を制定するもの。

○中泊町課設置条例の一部改正

組織機構の見直しをするため、それぞれ条例の一部を改正するもの。

○中泊町議会委員条例の一部改正

中泊町議会議員の議員報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正

○中泊町特別職の職員の給与に関する条例の一部改正

○中泊町教育委員会教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部改正

議会議員、特別職、教育長の期末手当の額を減額するため、それぞれ条例の一部を改正するもの。

○中泊町職員の給与に関する条例の一部改正

月六十時間を越える時間外勤務に係る時間外勤務手当の支給割合を改め、その支給の一部に代えて代休を指定することができるとする制度を設けるため、また職員の期末手当の額を減額するため、条例の一部を改正するもの。

○中泊町職員等の旅費に関する条例の一部改正

職員等の旅費の減額を引き続き実施するため、条例の一部を改正するもの。

補正予算

○平成二十一年度中泊町一般会計補正予算第十五号

補正額は、歳入歳出とも二億九百二十三万一千円を追加するもの。

補正する歳出の主なもの、国の補正予算に係る地域活性化・きめ細かな臨時交付金事業費及び公共投資臨時交付金事業費、子ども手当でシSTEM開発委託費及び乳幼児医療費助成費、西北五環境整備事務組合負担金、小泊中学校一号线法面保護事業費、小泊中学校屋内運動場改築事業費の追加、並びに既定予算額の精査等による老人保健事業特別会計繰出金、後期高齢者医療特別会計繰出金、国民健康保険特別会計(事業勘定)繰出金、重度心身障害者医療費、障害者福祉費、新型インフルエンザ予防接種費の減額など、それぞれ所要額を計上。

歳入については、歳出との関連において国庫支出金、県支出金、町債等について調整のうえ計上したほか、町税等については収入見込額を精査し、計上。

また、地域活性化・経済危機対策臨時交付金、きめ細かな臨時交付金、公共投資臨時交付金事業及び子ども手当でシSTEM開発業務委託、小泊中学校一号线法面保護事業、耐震改修促進計画策定業務委

ターの屋根が破損し、屋根改修工事の実施が必要となったことに伴い、所要の予算補正を要するため。

○一般会計補正予算第十四号について

町道の除排雪経費に不足が見込まれたことから、所要の予算補正を要するため。

議 議

○議員派遣について

中泊町議会会議規則第二百二十二条の規程により議員を派遣するため派遣案を提案するもの。

○電源立地地域対策交付金制度の交付延長等を求める意見書について

発電用施設の地域・周辺地域で行われる公共施設整備や、住民福祉の向上に資する事業推進に対して極めて重要であることから、交付期間の延長等を求める意見書を国関係省庁に提出するもの。

町長提案理由説明



本日、ここに平成二十二年第

一回中泊町議会定例会が開会され、平成二十二年度当初予算をはじめ、各般にわたる議案についてご審議を願うにあたり、町政の運営に関する所信の一端を明らかにし、提出議案の概要についてご説明申し上げ、議員各位並びに町民の皆様の深いご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

私は、昨年四月に合併後二期目を再選させて頂きましたが、常に町民の目線で公平・公正な町政の運営を基本とし、住民福祉の向上と町勢発展のため最大限の努力をしております。

「大地の恵みと海の幸 心ひとつに希望のまち」を早期に実現

すべく目標を定め、今現実にある課題から将来への展望を予測しながら歩んでまいりました。

この間、地方公共団体の財政の健全化に関する法律の施行により、町政の財政運営においては、ピークは過ぎたとはいえ多額の町債残高を抱え、慎重の上にも慎重を重ねその運営に意を傾注しなければなりません。その現実を認識し、町政が抱える課題が山積している中で、合併に係る財政面の特例措置を最大限に活用しながら、諸行政に対処してまいったところであります。このことにより、中里・小泊両地域の一体感の醸成が進み、まちづくりが進展しつつあります。これは、ひとえに議員各位をはじめ、町民の皆様の温かいご支援とご協力の賜と深く感謝申し上げます。

さて、時代は今、国政において昨年八月の総選挙で政権交代がなされ、新しい政権与党による政治手法も変化し、事業仕分けなどによる補助金等の見直しにより、事業計画の変更も余儀なくされています。景気回復の兆しも今のところはつきりとした形でその姿が見えず、消費の低迷や雇用問題が深刻化し、

生活不安が顕著となっております。

今後の地域経済の発展を進めるうえで、多方面にわたる諸課題への適切な対応はもとより、本町独自の伝統や文化を重んじながら、地域資源等に視点を向けた諸施策の推進がますます重要であると思っております。

このような状況の中でも、将来を担う子どもたちのための町づくりとして、明日の時代を担う子ども達が、優れた教育を受け、健全に育つように努めるとともに、地域に根ざした特色ある学校づくりを目指してまいります。

活力あふれる産業の町づくりとして、基本食糧である農業と漁業を主体とした食糧基地を目指した産業の振興を図ってまいります。また、豊富な人材や資源・エネルギーを活用した雇用を創出し、活力ある町づくりを図ってまいります。

安全で快適な生活をおくれる町づくりとして、安全で安心して暮らせる健康福祉や環境と調和した快適な町づくりに取り組んでまいります。

また、効率的な行政運営による町づくりとして、行財政改革

実施計画に基づき、事務事業の見直し等を継続し、多様化する住民ニーズや社会情勢の変化に柔軟かつ弾力的に対処できるよう、行財政改革を進めてまいります。

町づくり姿勢として、町政を停滞させることなく、みんな力を合わせ結集した知恵を、新たな発想で中泊町の未来を創造する施策に転換しながら新しい町づくりの実行に取り組み所存でありますので、議員各位並びに町民の皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、今申し上げました施策を進めるうえで、平成二十二年度の当初予算については、本年十二月に予定されます議会議員の選挙も実施されることと思っておりますが、国等における制度改正や補助・負担事業に対する速やかな対応が必要であることなどを考慮し、円滑な行財政運営を図る必要から、通常予算の考えで編成することといたしたところでありますので、なにとぞ、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

予算特別委員会

三月定例会に提案された平成二十二年度一般会計予算及び特別会計の予算について、全員で構成する予算特別委員会(大場栄委員長、川山光則副委員長)を開会。会期を三月九日、十一日の二日間と決めた後、付託された九件に対する審議が行われ、三月十二日の本会議において原案のとおり可決された。



川山光則 副委員長



大場 栄 委員長

平成二十一年度予算の概要

○一般会計予算

歳入歳出予算の総額は歳入

歳出とも六十六億五千百万円。前年度当初予算に対して、四億一千三百万円、六・六パーセントの増。

歳出の主なもの、総務費として地域連絡バス運行事業費及び武田・中高線バス運行事業費、民生費として子ども手当て支給事業費、衛生費として公費負担拡充による妊婦健康診査事業費、一般廃棄物最終処分場延命整備事業費及び循環型社会形成推進地域計画事業費、農林水産業費として海岸漂着物地域対策推進事業費、県営高根地区湛水防除事業費及び農地・水環境保全部向上対策事業費、土木費として今年度に引き続き、辺地総合整備計画に基づく若宮地区町道十四号線改良事業費及び尾別地区町道百九十二号線改良事業費、また、民生費、農林水産業費、商工費にそれぞれ重点分野雇用創造事業費を計上。

歳入については、その大宗を占める町税及び地方交付税のほか、国庫支出金、県支出金及び町債など見込額を精査したうえで計上。

○国民健康保険特別会計予算

歳入歳出予算の総額は事業勘定で歳入歳出とも二十三億二千二百九十九万四千円、診療施設勘定で歳入歳出とも六億四千七百七十四万三千円。

○老人保健事業特別会計

歳入歳出予算の総額は歳入歳出とも百三十二万八千円。

○介護保険事業特別会計

歳入歳出予算の総額は歳入歳出とも十三億九千八百八十一万三千円。

○農業集落排水事業特別会計

歳入歳出予算の総額は歳入歳出とも三千六百七十一万七千円。

○漁業集落排水事業特別会計

歳入歳出予算の総額は歳入歳出とも二千八百五十八万円。

○特別養護老人ホーム静和園事業特別会計

歳入歳出予算の総額は歳入歳出とも二億九千七百八十万四千円。

○後期高齢者医療特別会計

歳入歳出予算の総額は歳入歳出とも二億三千六百三十九万円。

○水道事業特別会計

収益的収入及び支出予定額として収入に三億五千五百二万三千円を、支出に三億七百五十五万五千円を計上し、純利益四千七百四十六万八千円。資本的支出予定額として一億七千五百四十七千円を計上。

平成22年 第1回臨時会

2月3日(水)、上程された報告1件、議案2件を原案のとおり承認、可決し閉会。

審議された議案

- 専決処分した事項の報告及び承認を求めるの件。
(平成21年度中泊町一般会計補正予算第12号について)
- 工事請負契約の締結について
- つがる西北五広域連合規約の変更について。

平成22年 第2回臨時会

3月25日(木)、上程された議案1件を原案のとおり承認、可決し閉会。

審議された議案

- 平成21年度中泊町一般会計補正予算第16号について

傍聴席は、あなたの席です!!

中泊町議会 平成22年第2回定例会は、6月初旬です。会議は公開されており、どなたでも議会の傍聴ができます。平成22年第1回定例会の傍聴者は、51名でした。皆さんの傍聴をお待ちしております。

一般質問

※質問議員の発言は、議員間の取り決めにより、800字程度に要約して掲載しています。また、答弁についても要約しています。

荒関富雄 議員



質問 第1 農業振興対策について

政権交代により農業政策も大幅な変更がなされました。かつては産地づくり交付金から今度は戸別補償制度へと。また政府は、新たな農業農村基本計画の素案では農政の大転換を掲げております。かつては一定規模の大規模化路線を取ってきたわけですが、これからは小規模を含めた意欲ある多様な農業者の育成に力を入れると。また地域農業の担い手では、家族経営が中心で規模拡大やこれからは、かつては1・5次産業などを目指せと言われておりましたが、1、2、3をかけた6次産業化とそれに取り組み、経営者の改善を支援するということが唱われております。ただこれは議論中ではありますが、今月中には農業農村基本計画の新たなものが策定されるはずでございます。そういう一連の流れの中で我が中泊町はどのような農

業の支援策を考えているのか。これは一つの提案みたいな形になりますが、私は人材の育成に力を入れるべきだと、特に高校卒業された18歳から35歳ぐらいまでの担い手の意欲ある組織づくりにも着手しなければならぬのではないかと。かつて昭和30年代、鳴海町政のころは建設班、また中堅青年、それを引き継いだ塚本町政では農業学園、また農業青年経営者会議など若者中心の組織が多々あったわけでございます。小野町政も中泊町の町政を担ってから2期目に入ったわけでありますので、小野町政の重要課題は人材育成だと、そういうことを町長にこの場で宣言してもらいたいものだなと考えております。

また、農業は人も大事であります。農地、土づくりが一番大切なわけであります。それで、安全、安心な農産物は健康な土づくりからということで、昨年末では当町ではわら焼きの収集機の導入、わらのすき込みなどへ助成されていたわけですが、今後わら焼き防止対策として何か施策を考えているのか、お聞きいたします。

また、国の農業予算の中で今年度の予算は土地改良事業団体への予算が大幅に削減されたわけでありますが、当町で行っている土地改良関連の事業への影響はないものか。

以上、人材の育成、農地の改良、組織の育成ということで質問いたします。

●小野町長答弁

当町でも昭和40年、50年代当時は農業後継者で組織する青年農業経営者会議が設立されておりました。各種研修会や農業先進地の視察、機関紙の発行など、若手農業者が活発に活動しておりましたが、その後の減

反政策など農業政策の変化や後継者の減少もありまして、組織もなくなっております。

現在は若手農業者を対象とした町独自の研修や勉強会が行われていませんが、県では農業経営に意欲があり、将来地域農業の推進者として見込まれる若手農業者を青森県青年農業者に認定する制度があります。また、平成20年度から、柔軟な発想と大胆な行動力を持った若手農業者を育成するため、「大きく育て、青春・農起業トッパーナイ育成事業」を実施しております。青年農業者につきましては、町から2名を推薦しており、先月の9日に知事より認定を受けております。また、トッパーナイ育成事業については、西北五地域から5名の塾生のうち1人は当町から認定されております。

組織の育成につきましては、現在認定農業者としての担い手もふえております。認定農業者の会が組織され活動しておりますが、若い後継者の割合はまだまだ低い状態にあります。これには国の農業施策も大きく影響しているものと考えられることから、今後の農政の動向を注意深く見守りながら、若い農業後継者が意欲的に農業に取り組んでいけるような環境づくりを進めていくことが重要であると考えております。

農地改良について、町の水田農業推進協議会では、プラウによる耕起、すき込みの作業をした担い手等に對しまして、10アール当たり2,000円の助成をいたしてききました。昨年の秋の状況を見ましても、この助成により稲わらの焼却防止対策にも一定の効果があったものと考えております。

4月からの新しい対策では、補助金は国から直接農家に支払われる仕組みとなっており、これまでのようにすき込みに対する作業への助成はなかなかではない

かと思っております。

ただ、現在県議会でわら焼き防止条例提出の動きが報道されていますので、条例が制定されることになれば新たな防止対策が講じられていく可能性もありますので、今後はその状況を見守り、県と関係機関と連携をとりながら、助成をも含めた対策を検討してまいりたいと思っております。

●加藤建設課長答弁

国から示された平成22年度農林水産予算のうち、農業農村整備事業に充てられた予算は、前年度5、772億円に比べ2、129億円となり、対前年度比63.1%の大幅な削減となっております。この背景には、農家所得補償制度の創設による財源の確保や事業仕分けによる農道整備事業の廃止など、農業農村整備事業では今までに例のない大変厳しい予算配分となっております。国や県からの説明によると新規事業の採択抑制、工期延長による継続事業の長期化、工事発注減により建設業の仕事量の減少などはこちらのこと、その他多方面にわたり影響を及ぼすのではないかと考えられており、具体的には国営かんがい排水事業小田川2期地区や県営高根地区湛水防除事業への影響が懸念されているところでです。

一方、農業農村整備予算の減額が直接農家経営に影響することはないという方もおられますが、農業農村の基盤整備事業の進捗が図られなくなることは当町のような農業が主体の地域にとりましては大変重要な問題であります。

このことから、今後も国、県と連携を密にして、農家に不利益の生じないよう対処していかなければならないと考えています。

荒関富雄議員再質問

人材の育成について今後何か具体的に施策を講ずるつもりがおありなのか、ないのか、そこをもう一度お聞きしたいのですけれども。

●小野町長答弁

町ではこの認定農業者が他のところよりもたくさん出てきております。この認定農業者の会を組織として人材育成にどうにかならないものかと。やはり認定農業者の方々は農業を目指して頑張っておる方々ですので、この辺をもとにして考えてみたいと思います。

荒関富雄議員

今、町長のほうから認定農業者を中心という形の答弁がありました。その認定農業者の中でも、家族経営協定などで結構、点在はしているのでありますが、若手もおりますので、そこいらも今後も加味しながら施策を実行していただければと思います。

塚本悦子議員



質問

第1

子宮頸がん予防ワクチン接種の補助について

国立ガンセンターによると、今話題の子宮頸がんは

若年層のHPV感染の増加により発症率がトップになっております。日本での死亡者は年間3、500人ほどです。この子宮頸がんは予防ワクチン接種で唯一予防できるガンと言われています。志木市では新年度から女子を対象に予防ワクチンの接種費を全額補助する方針で、魚沼市が小学6年または中学1年を対象に導入するとあります。治療費との費用対効果を考えるに投資額に対して効果は約2倍期待できると言われています。町でも予防ワクチン接種に補助をお願いしたいのですがお考えをお聞かせください。

質問

第2

町体育協会の現状について

県スポーツ振興審議会の提言によると「豊かなスポーツライフの実現のため総合型地域スポーツクラブの育成」とあります。今年もわが町の野外でのスポーツは大盛況になると思います。その中で中泊町グラウンドゴルフ愛好会は年に2回大きな大会を開催し、昨年第3回教育長杯は県内外から300人以上が参加し盛大であり今春は町長杯を予定。この団体は平成18年に結成し19年には中泊体協に入会を申し込んでいますがいまだに不許可になっています。他市町村ではこのような団体は許可されています。わが町での加入条件及び既加入団体、その活動状況をお聞かせください。

●小野町長答弁

子宮頸がんは、女性特有のがんとして乳がんに次いで発症率が高く、年間約3、500人の方が亡くなっていると推計されております。

その原因はHPVと言われるウイルスの感染であることが明らかになっていますが、すべての女性の約8

割が一生に1度は感染していると報告があり、その多くは症状がなく通常2、3カ月で体内からクリアされ、2年以内には消滅すると言われております。

予防ワクチンであります。我が国では昨年の10月に承認されまして、12月22日から外国製のものが発売されております。現在のワクチンは外国に多い発がん性の16型と18型というウイルスに起因する子宮頸がん、がんになる前の状態の前がん病変の予防を効能効果とするものですが、日本人女性の場合は16型と18型によるものは6割弱と言われており、残りの4割の場合には効果が無いということがあります。

いずれはすべての型に有効なワクチンが開発されると思いますので、補助金を検討するとしても、もう少し動向を見たほうがよいと考えております。

予防ワクチンを接種すればがんにかからないという意識づけをしないためにも、接種後も年に1回の検診の受診を勧めていますし、予防ワクチンは検診のかわりにはならないと多くの専門家が言っております。一番に優先すべきは受診率の向上にあることから、引き続き町民に対する啓発活動を強化していくとともに、あわせて思春期における性の教育と喫煙の防止教育の実施を継続し、予防に努めたいと考えています。

●熊木教育次長答弁

現在の町体育協会は、町村合併後の平成18年4月に旧中里町、旧小泊村の体育協会が合併して設立したものであります。15の部がありまして、約300名の会員が加入しております。体育協会の事業としては、元旦マラソンの開催、県民体育大会の出場が大きな事業となっております。

各部では、年間を通してそれぞれに練習を行ったり、

試合に出場したり、また自主開催の大会や町民対象のスポーツ教室の開催などを行っております。

さて、町体育協会への加入の条件であります。体育協会の規約ではスポーツ団体が加入する場合、または脱退する場合は総会において承認するとしておりますが、詳細については規定されておりません。理事会及び総会において加入を希望する団体の会員数、組織や活動状況を審査し、加入していただくかどうかを決定することになるかと思えます。

グラウンドゴルフの団体につきましては、以前お話がございましたが、理事会、総会の時期と若干ずれたことで無理だったと記憶しており、今年度は理事会の前に書類を提出していただくようお願い申し上げます。

塚本悦子議員再質問

子宮頸がんは検診とワクチンで予防できるガンですが特に20代、30代は検診を受ける年齢であるという意識が極めて低い。わが町ではその意識を高めるための具体的な対策は。また国施策の乳ガン子宮頸がん検診の無料クーポン券の配布済みは何人でしょうか。

●小野町民課長答弁

クーポン券の配付数につきましては、手元に資料がございますので、後ほど調査して報告したいと思います。

若い世代を中心とした受診率の向上につきましては、保健センターのほうでいろいろと施策を練っております。なかどまり広報に保健センターの欄が毎月設けられておりますので、それらを活用しながら、また、年度初めには保健相談員の方々が検診の用紙を持って每户個別訪問しております。やっぱり受診する、しない

は本人の意識でありますので、その意識改革に向けて保健センターと保健相談員の方々がこれからも町民に啓発していくことになっております。

塚本悦子議員

他県ではほとんど予防ワクチン接種を推進しております。町でも少子化対策の一環として妊婦検診14回無料、未就学児の医療費無料、第2子の保育料無料等他市町村にはないような画期的な政策で住民に大変喜ばれております。これからも中泊町の安心、安全に生活できるような健康、医療、福祉に取り組み他市町村にはないような目玉的政策としてワクチン接種の補助をお願いしたい。早くしないと手遅れになるのです。町長の英断に期待します。

青山雅晴議員



質問 第1 納税組合総会への職員の出席について

先月の21日に今泉第一納税貯蓄組合に招かれました。その時気がついたのは、昨年まで出席していた税務課の職員が来ていなかったことです。町民が納税に対して積極的に協力をしているのに、町側としては誠意が無いのではないかと。ちなみに、私の声が届いたのか、昨日今泉唐崎納税貯蓄組合に今課長に出席していただ

きました。未収、滞納などなかなか税収が見込めない中、納税貯蓄組合の役割は町にとって大きな努めを果たしていると思います。ですから、納税貯蓄組合の総会には職員の出席を要望します。

質問 第2 冬の除排雪について

昨年、今年と継続的に降る雪が、体の不自由な方、高齢者などを除排雪で悩ませております。どこの地区でも少子高齢化が進み、毎日、毎日降る白い悪魔に町民はうんざりしております。そこで委託されている業者や町の除雪車が住民にサービスできないものか要望します。

● 小野町長答弁

我が国の景気は依然として厳しく、予断を許さないものがございます。町においても、税収は景気低迷に伴い財政運営に深刻な影響を及ぼしているところであります。こうした厳しい状況下におきまして、納税貯蓄組合の皆様方には納税に対する深いご理解をいただき、積極的なご指導、ご協力も賜っていることに対し、心から感謝申し上げる次第であります。

一年に一度、町と組合員が情報交換できる絶好の機会に、私初め担当課長が出席しなかったことにより、組合員の皆様方は町の姿勢に対して不信感を持たれたものと心からおわび申し上げます。

今後総会などの会合の予定がございましたらご一報いただければ、多くは担当課長の出席となると思いますが、喜んで出席させていただきます、親しく町の状況などを説明させたいと思います。

● 川島福祉課長答弁

今年は何年になく降雪が多く、町民の方々は除雪等で大変だったと思います。特に高齢者の方々あるいは体の不自由な方々の家庭等におかれましては大変なことであったとご推察いたします。町社会福祉協議会のほうにも除排雪等の対応について要請が来ております。町としては、シルバー人材センターを紹介して処理に当たってきたところで、しかし、経費の負担面において困っている世帯も実際にあります。ボランティアによる除排雪隊の結成も必要かと存じます。ただ、依頼者が多くなることも予想され、対応に苦慮する面も出てくるかと思っております。これらを考えると課題も残りますが、民生児童委員の組織が各集落にあります。それらの主体的な取り組み、事業として活動できないかどうかを民生児童委員協議会と相談しながら検討したいと考えています。

● 加藤建設課長答弁

町では冬期間における町内道路の交通確保と町民生活の安定を図るため、毎年除排雪事業実施計画を策定し道路の除排雪を行っております。今年の冬は降雪が多く、2月中旬の段階で除排雪業務委託料の不足が見込まれたことから、専決処分により所要の予算補正をさせていただいたところで、

道路の除排雪以外のご指摘の宅地内除排雪を行うことにつきましては、その幅員や舗装構成等がまちまちなため、通常の除雪ドーザでの除雪は困難と思われることなどを考え合わせますと、福祉課長が答弁された方向で検討していくことが至当ではないかと考えています。

青山雅晴議員再質問

どこの納税貯蓄組合でも町の助成が減り運営が大変

だと聞いております。後期高齢者の年金あるいは介護保険、健康保険税がいろいろ通帳から引かれているわけでございます。我々も専門知識がないので、町の担当が来て、何でこんなに上がったとか、何でこれとらなければならないとか、できれば毎年担当者が来て納税者に対してきちんとした説明をする為に職員参加を望みます。

次に2点目でございますが、個人の敷地に入るのは色々な制限があると思います。ただ、いま課長の説明で、私の言いたいことは、あまり奥まで入らなくてもぐっと引張ってくれるだけでいいのです。へい垣を壊したり、ブロックを傷つけたりいろんな障害も出てくるとは思いますが、その辺をかんがみ、今年の12月当たりから降る雪に対して考えてみてはどうか。

● 加藤建設課長答弁

個人の敷地ということですが、確かに事情は十分わかりませんが、今年度当初で4,900万円の除排雪業務委託料を予定したものが、不足ということで1,900万円追加させていただきました。個人の敷地までということ考えますと、その金額そのものも膨大に膨らんでしまうのではないかと。そしてまた、やはり決められた時間、早朝の時間帯ですが、その範囲内でも交通確保のために除雪業務がなされているわけですので、時間帯の中でそれ以外の部分ということになる、やはり受託される側も大変な思いをされるのではないかと。通常の除雪業務への支障が発生するのではないかと危惧するところで、

青山雅晴議員

今課長の説明で、確かに経費がかさむことは分かり

ます。ただ個人的に1時間、1時間半もかけて片付けするのは大変です。92歳になる方が言うには、除雪車なら少し引っ張ってくればすぐできるのだけでも、何もそこまでやってくれなくてもいいんだと。いろいろ個人の敷地に入るのは規制があるかもしれないけど、少しなでていってくれるだけでいいので、ひとつ検討をお願いして私の質問を終わります。

奈良清治議員



質問 第1 新設工事と未完成工事について

新設工事は、尾別ゴミ処分場、採石場、今休業しているが木材加工場の道路工事の件です。現在使用している道路は、尾別町民には非常に迷惑をかけている道路であると思っています。そこで、会社工場使用のため町では、規則一二六号を定め振動、粉じんなどの公害がないようにしております。新設道路の完成後に各業者と協定書を作るのか、町道として使用させるのか、規則を廃止又は改正するのか。また、現在未完成の大沢内の陸橋からの取り付け道路の拡幅、中央公民館の裏の道路を東北電力の事務所の方へ付け替え、砂防愛ランドに行くための入り口付近の道路改良の3ヶ所は、今後完成に取り組むのか、取りやめにするのか町長の考えをお尋ねするものです。

質問 第2 今年十二月で青森まで開通の新幹線について

青森まで新幹線が開通することで各市町村は主に観光の呼び込み策で色々アイデアを考えているようです。当町では五所川原市の津鉄コースでストロブ列車終着駅中里に呼び込みをしています。観光バスでのコースは農免米マイロードを走り十三湖を回りつがる市に行く様なコースが多くなっています。旧中里で観光、そして旧小泊で景勝を見、海産物の買い物など何かバスで旅行も楽しめるコースを考えるべきではないか。また、観光誘致のための研究グループをつくり、民間と話し合いを進めていくべきではないか。町長の考えは。

質問 第3 行政組織改革はあるのか

今議会の13号議案で課の設置又は廃止が提案されているが、議案内容を解釈することは非常に難関である。町民は当分の間とまどう事が出るでしょう。そこできなくなった課、課の名称が変わってこういうふうになることを町民によく分かるよう説明すべきではないか。また、町長に提言しますが、町民独自で作ったクラブ（グラウンドゴルフ愛好会や色々取り組んでいる団体に支援してほしい。それから行政面では各種納税組合から総会の案内があれば関係課は総会に代表者を出席させ、行政の仕組み及び行政に疑問があるならば説明をし、町民の不満解消に努めるべきである。

●小野町長答弁

町道192号線の道路改良工事についてですが、以

前から尾別集落内を通る砕石場や木材加工場及び中里一般廃棄物最終処分場への町道13号線が軟弱地盤の箇所が大変多く、沿線住民の方々から苦情や改善の要望が寄せられたことを受けて、尾別川に平行して通っている町道192号線の道路改良工事を今実施いたしております。大型車両専用の道路として整備するつもりです。去る2月23日に指名競争入札を執行して、本工事を発注したところです。完成は平成22年を予定しておりますが、完成後は町道13号線の集落区間については道路標識を設置し、大型車両は通行止めとする予定であります。

また、砕石場開設のときに役場の中に協議会、規則をつくつたと、そうなりますとこの新しい192号線が完成した後にも協議会、規則をつくつてやるのかということですが、今後そういうことになると思います。

大沢内のバイパスの下もやっていますが、100メートルぐらいはまだ完成していない状況にありますので、さらにまたこれからやりたいと思います。

体育センターの裏、信号から、中学校から真っすぐに来る道路、これは稲垣にある焼却場が若宮のほうに来るといって承認いたしました。そのかわりに町にも組合のほうで何を差し上げたらよいかということで、私どもはあそこに真っすぐに道路をつけながら健康管理をしていたり施設をつくりたいということをやってきましたが、クレームがつかまされてそれが途切れております。

それと、中里木材のところから不動の滝に行くところの道路でございます。新しい基盤整備ができるということ、改良にも努めてまいりましたが、地権者の方でどうしても協力を得られないという状況で、中里

川の上流のほうに橋をかけて迂回しているという状況です。今後これにつきましては検討させていただきたいと思えます。

整備を予定しながら用地の問題があつて整備がなされていないところがまだありますので、我々もこれからぜひ根気強くやってみようと思つております。

●木村水産観光課長答弁

町における新幹線対応についての一般質問がこれまでも幾度となくされており、大きな期待を寄せているものと感じております。

鉄道の観光ルートは確立されつつありますが、観光バス路線については整備がはかばかしくありません。このことから、新青森駅から中泊町へということだけを考へての誘客を考へるのではなく、新青森駅から津軽一帯を考へた観光コースを設定するなど、広域的な観光は、県を初め関係機関の指導を受けて整備を進めるべきものと思つております。

新幹線開通に伴う受け入れ態勢づくりは、町にとつては大変重要なことと思つております。今後の態勢づくりは、多くの関係機関との情報を密に得て、地元事業者と情報を共有することが観光には大切なものと思つております。

●成田総務課長答弁

町では、平成20年3月に策定しました行財政改革大綱に沿つてこれまでも附属機関の整理合理化や出先機関の統廃合等組織機構の見直し等を行つてきましたが、平成21年3月末において17名の職員が退職となり、また広域事務組合や公立金木病院よりそれぞれ1名の派遣要請があり、町の事務への影響が予想されることから、職員の配置数を見直しし、住民サービスを低下

せない適正な職員の配置を行うことを考へております。

統廃合を予定している課は、一つは総務課と企画調課です。課名は総務課を予定しています。あと一つは、建設課と環境衛生課です。課名は環境整備課を予定しています。これまで11課でありましたけれども、9課となることとなります。

また、小泊支所の管理課についても若干見直しを図つておるところであり、管理課は廃止する予定にしております。

それから、系の統廃合も予定しています。税務課の庶務納税係と徴収係を統合し係名を庶務徴収係とし、納税と徴収の連携強化を図り徴収率の向上に努めるものです。

この統廃合によりまして新たな組織運営の課題など痛みを伴う部分も予想されますが、今回の組織改革によつて住民サービスの向上のみならず業務の効率化を期待しているところです。なお、先ほどご提言の2点につきましても前向きに検討させていただきたいと思つております。

角田 順一 議員



質問

第1

下前みなと団地造成地について

下前地区は急斜面で車の通ることが出来ない場所が

いまだに数カ所あり、びっくりするような土地柄であります。カモシカでさえ、時々転倒するほどの急斜面であり、造成地が完成した暁には簡単に全区画が売り払い出来るものと確信していましたが、残念ながら未だに売却できずに残っております。正直言つて地域住民は土地は欲しいが、高くても手も足も出せない状況にあります。最近の漁業は燃油高騰で、真面目に沖合に出ると、出れば出るほど赤字が増加する一方であり、また、魚価の低迷などで地域住民の生活は深刻な状況であります。

ライオン海道は完成して地域住民は大いに喜び感激いたしました。岩木山、津軽富士が日本海に浮き出て、やませの風が吹くと海は青々と、漁船が往来して飛沫を上げている光景は見事であります。景気が低迷していることから、土地単価を値下げして、環境のよい場所であるので今一度考へ直して、土地の完売を図るべきかと思つております。良きご答弁をお願いして終わります。

●小野町長答弁

下前みなと団地は、現在住宅用地が7区画、倉庫用地が1区画残つております。

確かに坪単価が約6万2千円前後になっており、現在の相場では高いように思われますが、既に購入して入居している住民の意向も考慮しながら、また不動産鑑定士の意見を聞くなどして価格をこれから検討していかねばならないと思つております。

みなと団地やそれ以外にも不要となった町有財産が幾つかあります。それも、今後積極的に売れるものから売る方針で対処するつもりです。売却に際しましては時世価格、不動産鑑定士などによつて価格の調査をしながら適正価格をもつて売り払いしなければなら

いと思っています。

角田順一議員再質問

町長の答弁は理解するが、しかし今のような状況では魚価の低迷、景気の低迷などによって結局買うと思ってもなかなか、買うことが出来ないのが現状であります。この土地は残るだけで、行政も節約の面から判断しても、今の状況では土地を求めるとは不可能だと思えます。鑑定士はどのように鑑定するのか分かりませんが、現在の坪単価6万2千円はあまりにも高すぎるので、町長の目安としてはどのように考えておられますか。

●小野町長答弁

目安についてどうなのかということですが、確かに私どもの固定資産税についても3年に一回の不動産鑑定士さんにお願しながら鑑定しております。当時は6万2千円ぐらいであったものが今現在では4万幾らぐらいに下がっているという状況でございます。鑑定を基準にしながらやってまいりたいと思います。

角田順一議員

町長としてこの場で値下げして坪単価を出すことは、立場としては出来ないと思います。地域住民としては、せめて坪単価4万円が妥当と判断しているようです。魚価の低迷、燃油高騰等何とかできないかという、地域住民の苦情と念願であります。町長もその辺を十分理解し念頭に入れて完売の方法をお願い申し上げます。

秋元啓志 議員



質問 第1 小泊地区町営住宅について

最初に町長にお聞きしますが、町長は小泊の改良住宅を最近見たことがありますか。そして小泊地域住民説明会で住宅や集会所建設について、どういう説明がなされてきましたか。合併してまもなくの頃ですが、最初に中里地区に町営住宅をつくり、それから小泊地区につくるような話で私も記憶しています。確かに18年度に1棟住宅はできたのですが、それ以降は放置したままです。住宅の奥に大沼というところがあります。子どもたちが入れないようにしていた金網が、除雪の車で押し込まれ倒れていました。これについては、建設課長さんにお願しておきます。もし町長が見ていたら、このままなら駄目だなともっと早く思うはずですよ。町長、現場を一度見てください。今後町営住宅をどうするのか、町長のお考えをお聞きしたいと思います。

質問 第2 原燃サイクル助成金について

これを何で一般質問したかというのと、この助成金を住宅の外構工事に回せないものかと考えたからです。行革大綱を見ましたが、確かに住宅は24年度までの延期となっています。保健センターについては小規模修

繕にとどめ、大規模改修必要時点で廃止となっています。ところが、原燃サイクルの助成金1億4,960万円のうち、23年度の体育センター改修事業に2,500万円を計画しています。私は2,500万円かかるといえば小規模改修ではないと思いますが、その辺を聞いて再質問させていただきます。

●小野町長答弁

小泊地区における町営住宅の建設については、平成7年度に策定されました小泊村改良住宅建替基本計画に沿って進められてきています。これまでに52戸が建設されており、残りは20戸となっていますが、このほかに駐車場、公園、集会所などが計画されたところですよ。

しかし、国の三位一体改革により、町村合併による財政上の特例措置を最大限に活用してもなお厳しい財政状況が続いてきております。平成18年度の改良住宅建設以降、小泊地区における町営住宅の入居の状況を見ながら、残りの改良住宅建設を見送ってきたところです。入居の状況については、現在小泊地区には、104戸の町営住宅がありますが、10戸が空き家となっております。このことから、残りの改良住宅建設についても小泊地区の住民の動向、そしてまた意見をお聞きしながら再度検討が必要であると考えております。

次に、花丘団地の外構整備についてです。今年はまだ行っていないませんが、前に行ったときに見て、速やかに整備しなければならぬものと考えております。主に駐車場や道路などと存じますが、この整備については21年度に国土交通省から示されております公営住宅等長寿命化計画策定指針に基づく長寿命化計画の策定が前提となっています。この計画を策定した上で、県、

国と整備に向けた協議を進めてまいりたいと思います。花丘団地の集会所の建設についてですが、今の財政状況と将来にわたる維持管理などを考えあわせますと大変だと思っております。前例として中里地域の八幡団地集会所がございました。入居者で組織された管理団体がございました。ところが、とても管理をしていけないということで、町のほうにその集会所の管理を返してきている状況になっていきます。そしてまた、さわやか団地の集会所についてどうすればよいか調査いたしました。その集会所の運営につきましては、皆さんそれぞれ消極的で、結果的には建設が見送られたという経緯もございますので、集会所につきましてはさらに慎重にやらなければならないと思っております。

ただ、保健センターの前にございます小泊老人憩いの家のような既存のものをも利用しながら、考えていかなければならないと思っております。

●秋元企画調整課長答弁

原燃交付金の運用についてのご質問にお答えいたします。

本事業は、正式には原子燃料サイクル事業推進特別対策事業といいますが、平成21年度から平成25年までの5カ年で計画することになっております。本年度、当町の場合は、平成21年から24年度までの4カ年で計画を策定し、総事業費として1億6,140万、助成総額が1億4,960万円の計画をむつ小川原地域産業振興財団に提出し、承認をいただいております。年度ごとの事業ペースで申し上げますと、平成21年度は中里地域ごみ収集車購入事業、2台で2,919万9,000円、小泊地域気象観測装置導入事業、一式で408万7,000円、それから小説津軽の像記念館整

備事業、これが368万3,000円となっております。実施もしくは実施中でありまして、合計額で3,696万8,000円の事業費となっております。平成22年度は小泊地域ごみ収集車購入事業、1台で1,460万円、平成23年度は中泊町体育センター1改修事業、2,546万3,000円でありまして。平成24年度は中里中学校屋根改修事業、8,436万9,000円であり、各事業を計画いたしております。

事業の選定に当たりましては、各課から要望を取りまとめしまして、その中で財政課と協議し、適当と思われる事業に配分いたしております。

●秋元啓志議員再質問

前々から言ってきましたが、残っているところは一番古い住宅なのです。財政が厳しいのは分かっていますが、入居者にお願ひしながら考えていかなければならないと思います。その辺も一度お聞きしたいと思います。また、体育センター12,500万円、原燃の助成金が来たからそれをやるようになったのか、ここをもう一度お知らせください。

●熊木教育次長答弁

体育センターの関係についてご説明いたします。併当時のシミュレーションからすれば、財政事情が厳しいということ、体育センターの大規模改修は無理だろうと、当然下見したと思えますけれども、体育センター自体の性格からすると、スポーツの振興と青少年の育成等々を考えると絶対必要な施設であります。そういった中でこういった使える財源ができたということで、新築ではなく、大規模改修で進めていきたいというのが今の考えです。ただし、2階観客席にク

ラックが入っているので、建物の構造が安全なのか、22年度に耐震度調査を予定しております。それで問題がなければ、23年度に原燃助成金を活用し、改修する計画であります。

●小野町長答弁

住宅につきましては、先ほども申し上げましたとおり、小泊地区の場合は住民の皆さん、そしてこれからの動向を見ながら検討しなければならぬと思っております。ただ、その場所でもう一つ建てばいいとありますけれども、もしも建てなければならぬのであれば下のほうでもいいのではないかとすることも考えられます。それと中里地区にもまだ解体しなければならぬもの、その後の住宅についてもまだまだあります。これらを見ながら検討したいと思っております。

川山光則 議員



質問 第1 町監査委員の増員について

近年、あちらこちらで職員等による不正や不祥事が連日のように報道されています。本年に入っても青森市役所や弘前市役所等で、また昨年には県社会福祉協議会と多発しております。

本町は今までこのようなことは報告されていません

が、職員や役員が優秀なのだと思います。が、それにしては現在町では町村合併や行革等で職員数も大幅に減っています。これらの事情をかんがみると、今後監査委員の役目はますます重要になってくると思います。このようなことから、私は監査委員の増員を求めます。町長や代表監査委員の考えを伺います。

質問 第2 町で風力発電事業はできないかについて

現在、五所川原市市浦地区で風力発電が8基回っています。また、外ヶ浜町でも現在進めていると新聞等で報道されていましたが、中でも外ヶ浜町の例を新聞記事の内容で見ると、町長や町の有志等が中心になって進めているとのこと。そこで当町でも見習ってはどうかでしょうか。今現在は国の事業に対する補助や電気の高価買い取りが決まっており、税収の伸びが見込まれない中で、町独自で事業を起し、仕事場の増加や多少の収入にでもなるのではないかと考えます。町長の考えを伺います。

●小野町長答弁

風力発電は、石油や石炭などの化石燃料の枯渇問題や温室効果ガス濃度の増加が原因とする地球温暖化問題の対応策として注目されているエネルギー源の一つです。

特に我が町は季節、方角を問わず風が吹いていることから風力発電事業者の関心を集めまして、これまで数社が十三湖周辺の水田地帯を中心に立地調査を実施してきています。平成20年にはそのうちの1社が東北電力の抽選に当選しまして、平成23年度までに本町の十三湖南側に出力2千キロワットの発電機10基を建設することを新聞で発表し、期待しておりました。しか

し、この会社の都合により計画が中止となり非常に残念に思っております。その後も幾つかの会社から打診がありましたが、具体的な動きにはなっておりません。

風力発電の立地の問題点としては、まず東北電力の抽選に当選しなければならぬということがあり、多く条件さえ整えられなくても応募できるようなものであり、多くの申し込みがあるようです。また、電力会社の受け入れ態勢もあるようですし、ほかの地区との競合も考えられます。相当厳しいようではありますが、これらの条件をクリアした事業所については町としても積極的に協力していく所存であります。

●成田総務課長答弁

昨今、他の地方公共団体での裏金や公金の不適正経理等の不祥事についての報道がたび重なっておりますが、一部の公共団体での事件とはいえ、住民の行政に対する信頼を大きく損なうものとしてまことに遺憾であります。

これらの事件を防ぐためには職員一人一人の公務員倫理の確立、適正な行政執行体制の実現等により、事件を引き起こす土壌の排除が重要となつてまいります。あわせて早期発見や再発防止の意味からも監査機能のさらなる充実が求められているものと考えます。

監査委員制度は、公正で合理的かつ効率的な地方公共団体の行政を確保するために設けられた制度でございますが、監査委員は財務に関する事務の執行及び経営にかかわる企業の管理を監査することとされており、

本町の監査体制につきましては、現在監査委員が2名、事務局職員が1名の計3名の体制であります。

また、地方自治法におきましても、平成9年度の外部監査制度の導入や平成18年の監査委員定数の改正状

況など、監査機能の充実強化のために所要の改正が図られているところであります。

これらの監査体制の充実、外部監査制度の導入及び監査委員定数の改正等の各施策は、監査機能の独立性、専門性の強化を図り、町民からの信頼性の向上を図る上でこれからの一つの課題であると考えております。

しかしながら、相当の費用を必要とすることもあり、当面は監査委員による監査体制の充実強化、事務局職員の専門研修の充実、議会審議を通しての監視、さらには情報公開による町民の監視などにより効率的で質の高い監査体制の構築を図ってまいりたいと考えています。

●葛西代表監査委員答弁

監査に係るご質問のうち、近年テレビ等で報道されている職員等の不正などについての件についてお答えいたします。

まず、監査の実態ですが、実施に当たりましては中泊町監査委員条例及び同規程により年間計画を定め、これに基づいて毎月2日間の例月出納検査、年1回2日間の定期監査、財政援助団体監査及び決算審査で7日間の年間延べ33日の日程で実施いたしております。

さて、ご質問の件ですが、それぞれの監査等において字句の間違いなどの細かいものについてはその都度指摘しております。また、例月出納検査及び決算審査等の結果につきましては、角田監査委員、事務局と協議し、合議の上、今まで公表している報告書及び意見書のとおりであり、当町においては職員の不正等はないものと思っております。

薄市小学校6年生 議会傍聴の感想

- ・今 健瑠…議員の方は、自分から進んで質問していて、町の住民のために話し合いをしていたので、ぼくも進んで話すことをまねしたいと思います。
- ・佐藤 亮太…議会では、町のためにいろいろなことを長い時間話し合っていました。ぼくたちのわからないことまで話し合っていてすごいと思いました。
- ・富士 健太…議員の方たちが話していることを、全部は聞き取れませんでした。町のためになっている話し合いをしていると思いました。
- ・小寺 崇征…ぼくは、少しつまらないと思いましたが、話を聞けました。でも、意味がわからなかったです。
- ・平山新太郎…議会の見学を楽しみにしていました。何を話しているのかわからなくて、小学生には難しいと思いました。
- ・奈良 翔太…議会見学では、いろんな議員さんが、いろんなことを発言していました。町の人も聞いていました。いい経験でした。
- ・牧野 壘…議員の方たちは、自分から積極的に質問していたので、ぼくも中学校に行ったら積極的に発言したいです。
- ・野上 航…話に聞いているより、実際に見学したら、難しいことをしていることがわかり、何を言っているのか、全部の意味はわからなかったけれど、しっかり聞くことができました。
- ・小山内実来…最初のうちは何を言っているかわからなかったけれど、聞いているうちに慣れてきました。町のために少しでも役に立つことを考えてくれているのでうれしいと思いました。
- ・富士 鈴奈…議員の方たちは、1つの質問に対して、2つ3つと意見を言っていました。答える人は全部暗記していたのですごいと思いました。
- ・三上 李奈…私たちのためにやってくれてうれしかったです。難しい話し合いましたが見学できてよかったです。
- ・江良貴保子…議員の方が話していることは、難しすぎてメモしきれませんでした。町のためにいろいろ考えてくれているので、すごいなどと思いました。
- ・齋藤アスカ…議員の方たちは、町のためにいろいろなことを発言していました。町をもっとよくすることを話し合っていて、すごいなあと思いました。
- ・成田 杏華…あまり話の内容はわからなかったけれど、議員の方たちが町のためにたくさん発言していて、大変だと思いました。
- ・小林 静花…議会見学に行って、話し合いを聞いたら、中泊町のことがこうやって決まっているんだとわかったのがよかったです。
- ・青山ほのか…最初は言っていることがあまりわかりませんでした。地域にとってとても大切なことを話し合っているということがわかりました。とても勉強になりました。
- ・澤田 未希…議員の方が、何を言っているのかわからなかったけれど、ちゃんと私たちのことも考えて、長い時間をかけて話し合ってくれたのでうれしかったです。
- ・小寺菜々歌…議員の方たちは、中泊の人たちがよい生活をするために、いろいろなことを話し合っていました。私たちは、聞いてもあまりわかりませんでした。議員の方たちが一生懸命考えていることがよくわかりました。
- ・佐々木亜美…議員の方たちは、町をよくするために、本当にいろいろなことを、町民のことを考えてやっているの、すごいと思いました。

『薄市小学校6年生の皆さん、感想ありがとうございました。』

機会があったら傍聴に来てください。』

委員会だより

総務企画常任委員会 (山田光春 委員長) 2月16日(火)

〈案 件〉

- ・電源立地地域対策交付金制度の交付期間延長等を求める意見書について
- ・その他



議会運営委員会 (米塚慎一 委員長) 2月22日(月)

〈案 件〉

- ・平成22年第1回中泊町議会定例会会期日程について
- ・予算特別委員会の組織及び委員会日程について
- ・提出議案について
- ・陳情書の審査結果について
- ・新規に受理した陳情等の取り扱いについて
- ・その他



議員表彰

このたび、地方議会議員としての長年の功勞(議員27年以上)により、角田順一議員が全国町村議会議長会表彰を受けられました。誠におめでとうございます。今後とも、地方自治発展のためご尽力いただきたいと思います。



角田順一 議員

【1月】

- 4日 新年を祝う集い
- 20日 例月出納検査
- 21日 中泊町商工会新春講演会
- 例月出納検査

【2月】

- 1日 定期監査
- 2日 定期監査
- 3日 平成22年第1回臨時議会

議会の動き

- 3日 総務企画常任委員協議会
- 3日 産業建設常任委員協議会
- 14日 文化賞・スポーツ賞授与式
- 16日 総務企画常任委員会
- 18日 総務企画常任委員協議会
- 19日 例月出納検査
- 20日 西北郡町村議会議長・事務局長会議
- 20日 津軽・東京吹雪の会総会
- 22日 議員運営委員会
- 23日 青森県町村議会議長会第60回定例総会
- 23日 西北五広域福祉事務組合議会

【3月】

- 3日 平成22年第1回定例議会開会
- 8日 総務企画常任委員協議会
- 8日 定例会一般質問
- 9日 予算特別委員会(特別会計)
- 11日 予算特別委員会(一般会計)
- 12日 単行案審議、閉会
- 16日 中里自衛隊父兄会定時総会
- 17日 例月出納検査
- 18日 例月出納検査
- 24日 平成22年公立金木病院組合議会
- 25日 平成22年第2回臨時議会
- 議員全員協議会